

## ファイザー(PFE)

【セクター】 ヘルスケア

【市場】 NYSE

## 【企業概要】

米国の医薬品大手です。腫瘍、炎症、心血管疾患、その他の治療分野 向けに医薬品、ワクチン、医療機器、消費者向け医療製品を提供、世界で事業を展開しています。売上は新規性の高い製品の開発と展開を行う「イノベティブ・ヘルス分野」と既に特許が切れるなどしたレガシー製品を扱う「エッセンシャル・ヘルス分野」に分けて開示されており、18年の売上構成比はそれぞれ62%と38%です（図表2）。

【業績】（単位：売上、純利益は百万ドル、EPS、DPS、BPSはドル、ROE、自己資本比率は%）

決算期	売上高	純利益	EPS	DPS	BPS	ROE	自己資本比率
17年12月期	52,546	12,462	2.06	1.30	11.9	19.1	41.7
18年12月期	53,647	13,521	2.26	1.38	11.1	20.1	40.0
19年12月期予想	53,278	16,655	2.91	1.43	10.3	27.8	-

※EPS：1株当たり利益、DPS：1株当たり配当、BPS：1株当たり純資産、ROE：株主資本利益率（出所）BloombergデータよりSBI証券が作成

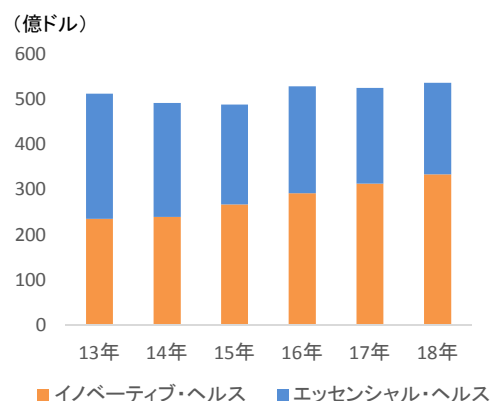
## 【主要指標】

図表1 主力薬の売上（18年）

薬品名	効能	18年売上 (百万ドル)
リリカ	疼痛治療薬	4,970
イブランス	乳がん治療薬	4,118
エリキュース	血栓塞栓症治療薬	3,434
エンブレル	関節リウマチ治療薬	2,112
リピートル	高脂血症治療薬	2,062
ゼルヤンツ	関節リウマチ治療薬	1,774
チャンピックス	禁煙治療薬	1,085
スーテント	イマチニブ抵抗性がん治療薬	1,049
ノルバスク	高血圧治療薬	1,024

(出所) 会社資料よりSBI証券が作成

図表2 分野別売上の推移



(出所) 会社資料よりSBI証券が作成

## 【会社の見方】

2013年頃より大型薬の特許切れが相次いだことから売上の減少圧力が強くなり、企業買収によって売上の減少を補い、利益水準を維持することが多くなっていました。しかし、昨年頃より売上のオーガニック成長率（事業買収や売却および為替の影響を除いた成長率）が回復して買収に頼らず成長できる可能性が出てきています。18年4-6月期の決算リリースで同社CEOは、「開発後期にある新薬候補のポートフォリオは過去数十年で（last decades）最大であり、2022年までに概ね25～30個の新薬が承認され、うち最大15個については、ブロックバスター（年間売上が10億ドルを超える薬）の可能性がある。」と自信を表明しています。

## 【見通し・注目点】

19年1-3月期はオーガニック成長率が前年同期比5%増、営業利益も同9%増と堅調でした。主力の「バイオ医薬品」部門が「イブランス」「エリキュース」「ゼルヤンツ」などが牽引して前年同期比7%増、医薬品製造の「アップジョン」部門はバイオグラの競合激化の影響を中国事業の伸びがカバーして同1%増を確保しました。

(SBI証券 投資情報部 榮 聡)

(更新日 19/6/19)

本資料は投資判断の参考となる情報提供のみを目的として作成されたもので、個々の投資家の特定の投資目的、または要望を考慮しているものではありません。投資に関する最終決定は投資家ご自身の判断と責任でなされるようお願いいたします。万一、本資料に基づいてお客様が損害を被ったとしても当社及び情報発信元は一切その責任を負うものではありません。本資料は著作権によって保護されており、無断で転用、複製又は販売等を行うことは固く禁じます。